

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202270		
法人名	社会福祉法人 江寿会		
事業所名	グループホーム サンホーム江上 Aユニット		
所在地	長崎県佐世保市江上町4847-10		
自己評価作成日	令和2年11月12日	評価結果市町村受理日	令和3年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 2年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな立地に面しており環境に恵まれている。地蔵花苑が有り外気浴や散歩、ピクニック、花見等を楽しむ事が出来る。又、施設からは大村湾が一望できハウステンボスの夜景や花火も楽しむ事ができる。施設横には畑もあり野菜を育てることもできる。職場内・外で研修や勉強会も多く職員の意識向上に努めている。委員会や様々な行事等を通して他部署との交流が出来ており連携が取れている。夏祭りなどの地域行事への参加、実習生、地域ボランティアの受け入れも積極的に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は母体法人の施設と隣接し、敷地内に広い芝生の広場や観音像のある地蔵花苑を有している。また、眼下に大村湾とハウステンボスを臨め、四季を身近に感じられる環境と立地は事業所の強みである。例年保育園児の誕生会へ利用者が参加し、事業所夏祭りではボランティア団体が利用者の見守り、出し物を披露するなど地域との交流が拡がり、さらに、アルツハイマー啓蒙活動や介護教室の開催や毎年、大学の実習生の受け入れなど信頼を深めている。家族に運営推進会議議事録と資料を毎回送付し、事業所の理解を深めており、毎月家族に利用者の状況を電話で伝える等、家族から喜ばれ安心と信頼を得ている。理念の思いは職員に浸透し「その人らしく」「笑顔」の具現化を常に心掛けている。利用者が観音像へ手を合わせる穏やかな暮らしと利用者職員が和気あいあいと笑顔が溢れる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の自己意思や自己決定を大事にし、「笑顔」「共感」「団結」で支援している。	法人理念の「笑顔、共感、団結」を基に、利用者がその人らしく、笑顔で暮らせることを事業所理念として掲げている。事務所や目に付く場所に掲示がある。職員は、利用者の笑顔を引き出す声掛けを常に意識しており、職員の笑顔が利用者の笑顔に繋がり、理念の具現化が見てとれる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に1回の運営推進会議や、地域の方の自宅へ伺いスイカを頂いたりしながら、地域の方との交流を行っている。	地域住民を対象とした介護教室の開催や、保育園児の誕生会参加、大学生の実習受け入れ、アルツハイマー啓蒙活動でのチラシ配りなど地域とつながり交流している。毎年、近隣住民宅へ出向き、スイカをもらったり、庭園に小学生が1クラス遊びに来るなど地域と交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れや、アルツハイマー啓蒙活動に参加しながら認知症の理解の努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、その場での意見交換等を行っている。	年6回、市職員を含む規定の参加者で開催していたが、現在は新型コロナ禍で参加者に資料を送り、意見の返信を受けての書面会議である。事業所の現状、活動内容、研修、事故報告など議事録で確認できる。会議を通してボランティア団体が夏祭りの見守りを手伝うなど意見を反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の役員の中に佐世保市職員も含まれており、アドバイス等を頂いている。又、包括の職員とも、困難事例に関してアドバイスを頂いている。	介護保険の認定更新などで市の窓口に出向き、担当者と話している。市の依頼で介護教室を開催したり、介護相談員を受け入れるなど協力関係を築くように取り組んでいる。市との連絡はメールやファックスが主である。市主催の研修会も案内があれば、受講している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を中心に身体拘束についての理解を深め、個人に合わせたケアが実施できるようにしている。	身体拘束適正化委員会は毎月開催し、職員に内容をフィードバックし共有している。法人研修を年3回開き、内部研修は月1回の実施で、言葉遣いやスピーチロックなど周知を図っている。センサーの使用は家族の同意書を得ている。これまでに解除に向けて検討し解除した事例もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での勉強会への参加や、外部研修などを通じて、虐待防止に向けて取り組んでいる。また、法人で委員会があり、常時活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	隣のユニットに成年後見制度を利用されている方がいるので、不明な点などは後見人に聞き把握に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約の際や、制度改定の時などは説明を行い、不明な点に関しては説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各利用者には担当の職員を配置しており、利用者の意見等を聞くように心がけている。また、家族の面会の際には要望等が無いか確認を取るようになっている。	入居時に外部、内部の相談窓口の説明を行っている。利用者の担当職員が、家族等へ体調や日頃の様子を密に伝え、要望等を聞いて、内容は管理者に伝えている。2ヶ月毎に、写真を添えて運営推進会議録も郵送し家族に好評である。現在の面会は窓越しやタブレット使用である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダーや職員より意見がある場合はその都度提案してもらったり、会議の際にも同様に意見の提案をしてもらっている。	毎月のユニット会議で、職員は提案やアイデアを出し合い、家族の面会時のタブレット使用に反映している。年1回管理者との面談があり、日常的に相談など気軽にできている。管理者が法人に伝え、職員が働きやすい職場環境作りに努めている。職員のチームワークも良好である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に管理者や職員の状態の把握に努めており、各職員が向上心を持って働けるような仕組み作りが行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者から管理者、各職員への聞き取り等にて、必要な資格・研修の受講への働きかけが行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の勉強会や、老協協、グループホーム連絡協議会、ケアマネージャー連絡協議会など、同業者との交流も多い		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には本人の要望の聞き取りを行い、それに基づいて支援を行うようにしている。また、定期的に支援の見直し、必要に応じて変更を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の段階で家族の要望等を確認している。また、面会の際や電話があった際には、利用者の状態を伝え、不安な事や要望等が無いかな確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に本人、家族が何に困っているかの把握に努め、それに応じたサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや簡単な調理等を可能な方にはお願いをし、役割を持ちながら生活を送って頂けるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	主治医以外の受診の際などは基本的にご家族へ依頼している。受診困難な場合は職員にて対応し、受診結果の報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との面会など、施設に入られた後でも関係が途切れないように支援している。	新型コロナ禍前は、以前からの行きつけの理髪店に通ったり、自宅へ外泊、外食、墓参りなど自由にできていた。現在は外出支援が厳しい中、家族と電話したり、年賀状を書いたり、馴染みの継続支援に努めている。好きな音楽を聴いたり、新聞を読むなど本人の習慣も大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間関係の把握に努め、トラブルに発展しそうな時は職員が間に入るなどして未然に防ぐ努力を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を退所になられても、今後の生活の場が確保できるように他職種と連携を図りながら支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	主に各利用者の担当者が本人の要望の把握に努めており、支援に反映するようにしている。	利用者の担当職員が暮らし方の要望など聞き取り、起床時間、食事時間など出来る範囲で柔軟に対応している。表出困難な場合は、表情、態度、仕草などや家族等にも相談したり、生活歴や習慣を基に検討している。また入浴時など1対1の時に思いを聞くこともあるが、記録されていない。	日々の暮らしの中で、利用者の思いや意向は、その時その時に共感し、受け止めることが重要であるため、新たな情報や本人の発した言葉を、申し送りなど口頭で伝えるのみでなく、全職員が情報共有できる方法の検討を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族、その他関係がある方より生活歴の聞き取りを行いこれまでの暮らしの把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースに合わせて生活を送って頂いている。また、可能な方については家事を手伝って頂いたり、現在できる事を継続できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアプランのモニタリングを実施しており、現在の状態に適しているのかを検討している。また、急激は状態の変化が見られる際には、その都度計画の見直しを行っている。	利用開始時のプランは1ヶ月で見直している。毎月のケアカンファレンスや毎日記録する介護計画実施録を基に、モニタリングを行っている。職員は担当利用者の状況や家族の意見を面会時や電話で把握し、ケアプラン担当者会議に参加している。主治医の意見を取り入れ本人本位のケアプランを作成し、実施前に家族の同意の署名を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや県下に関しては、申し送りノートを使用し、職員間の情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望が聞かれる際は、可能な限り対応をさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の開発・発見を行っているが、現在活用が上手くできていない現状がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度かかりつけ医への定期受診を行っている。その他にも体調に異変が見られる時には、かかりつけ医への連絡を行い必要に応じて受診を行っている。	かかりつけ医は家族の意向に沿って決めているが、現在は全利用者が協力医を主治医としている。月1回の定期受診は職員が同行し、結果を家族へ連絡している。また、受診記録へ記載し職員で共有している。歯科の訪問診療はコロナ禍の現在は中止している。看護師職員が講師になり急変時の研修を実施し、職員への周知を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が1名配属しており、変化等が見られる際には看護師への報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護師や地域連携室のSWと連携し、退院に向けての情報交換や情報の共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に、看取りを実施していない事を伝えた上で、重度化した際の対策等を予め話し合っている。	事業所は「重度化した場合の対応に関する確認書」の中で看取り支援を行わないことを明記し、説明を行い家族の同意の署名を得ている。また、家族会にて個別に面談し、再度看取りの場所の希望を確認している。看取りの段階に入った時には主治医の説明の下、家族の希望に沿って施設や病院を紹介し、家族の安心に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師からの勉強会等に参加し、急変時や事故時の対応について学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に避難訓練を実施している。また、日中と夜間の想定に分けて実施しており、その都度動きや反省点について話し合っている。	火災避難訓練は年3回、夜間想定は2回、内1回は消防署立会いで実施し、毎回、反省と振り返りを行い改善に繋げている。備蓄や非常持ち出し品の整備も行っている。事業所の近辺に民家は無く、敷地内にある法人系列施設と連携を取っている。ただし、今年、大型台風を経験し、課題の対策や自然災害の避難訓練の実施はこれからである。	事業所内の対策のマニュアル作成や職員への周知、また、地震など自然災害の避難訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や生活歴を把握した上で、丁寧な言葉かけを行うように心がけている。	職員は利用者を人生の先輩とし、苗字にさん付けで呼び掛け、居室ドアは閉めてノックや声掛けして入室している。また、認知症の周辺症状に笑顔で対応するなど、人格を尊重した支援を心掛けている。個人情報の取り扱いは写真掲載を含めて家族の同意を得ている。また、職員は守秘義務の誓約書を提出し、理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望が聞かれる際は、可能な限り実現できるように職員が働きかけている。また、各担当の職員が本人の希望を表現できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の生活のペースを把握した上で、可能な限り希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪料や乳液等、本人が望まれるものは担当の職員や家族が準備し使用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所前に本人が好きな物、嫌いな物を把握している。また、アレルギーの有無を確認し、代替品を予め準備し、安心して食事して頂けるように取り組んでいる。	食事は業者へ外注しておりレトルト食品が主で、事業所で温め、アレルギーや刻み食など嚥下能力の対応を行っている。利用者は台ふきや食器洗いなど手伝っている。誕生日はケーキで祝い、「焼きそば会」では一緒に作って楽しんでいる。ただし、利用者の希望の献立など業者へ反映がなく、また、利用者が食事を楽しむ工夫が少ない。	食事は利用者にとって大きな楽しみの一つであるため、利用者の希望の献立を業者が反映する仕組みや、食事を楽しむことのできる工夫に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に合わせた食事を提供している。また、食事量・水分量の把握に努め、必要な際には看護師・主治医への相談を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行うように支援している。磨き残しが多い方に関しては、職員が一部介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日の排泄を表に記入し、個人の排泄パターンの把握に努めている。便意・尿意が無い方に関しては、時間を見ながら声かけ・誘導を行っている。	職員は尿、排便チェック表を付け、利用者の排泄状況を共有している。日中はトイレでの座位排泄を基本とし、声掛けや誘導、排泄介助を行っている。毎月、利用者の排泄状況に合った支援方法の検討を行い、自立に向け取り組んでいる。リハビリパンツから布パンツへ改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向な方は、排泄時にお腹のマッサージを行い、排便が見られるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回以上の入浴を実施している。また、入浴剤の使用やゆず湯・菖蒲湯など季節感が感じられる入浴を実施している。	入浴は毎日準備し、週2回以上を基本としている。体調や気分で入浴できない時は、時間や曜日を変え週2回の入浴を確保している。車椅子の利用者は足浴とシャワー浴の支援を行っている。同性介助の希望に応じ、入浴剤や季節のゆず湯、菖蒲湯など楽しむ工夫がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良の訴えがあった際などは、居室にて休んで頂くようにしている。また、夜間は定期的に巡回を行い、異変がないか確認を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬前に職員2人体制にて日にち・名前・いつの薬かの確認を行った上で与薬している。また、内服薬が変更になった際には、申し送りノートに記入し、職員間での情報の共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な方に関しては、食器洗いや洗濯物たみ等の家事援助を行って頂き、自身の役割として取り組んで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があった際に天気やその時の状況に応じて、近場の散歩を行っている。また、時期を見ながらお花見やドライブも計画しながら行っている。	季節の花見の他、イベントや観光地ドライブなど企画を立て、毎月のように出掛けている。また、利用者に同行し買い物へ外出している。家族と観光施設で外食する利用者もいる。新型コロナ禍では敷地内の地蔵花苑へ個別に散歩へ出掛けたり、外気浴など気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各個人の小口現金を管理しており、必要に応じて使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族より希望があった際はその都度電話を繋いでいる。また、携帯電話を所持されている方に関しては、電池の確認等を行い、常に電話が繋がるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日共用スペースの清掃を行い、清潔を保つようにしている。また、壁面には職員・利用者が共同で作成した作品を飾っている。	広がりリビングは、天窗からの採光が快適で、ソファや椅子を多く配置し、利用者が好きな場所でゆっくり寛げる工夫がある。新聞を読んだり手芸したり、廊下のソファで日光浴する利用者もおり、自由に過ごしている様子が窺える。壁に手作りの作品が飾られ季節感もある。職員が掃除や温度湿度の管理を行い、清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはソファを設置しており、気の合う方と談話されたり、おひとりでゆっくり過ごされたりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具や思い出の写真を居室に配置する事により、居心地よく生活して頂けるように支援している。	居室はベッドと寝具を設置しており、毛布は持参である。テレビ、整理タンス、写真、人形、歌のCD、化粧品、経本など馴染みの愛用品を持ち込み、その人らしい居室となっている。職員が掃除や換気を行い、温湿度計により乾燥している時は加湿器を使用している。夜にテレビ鑑賞する利用者もおり、自由に寛げる環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の動線を把握した上で、家具の配置等に注意しながら安全に生活して頂けるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202270		
法人名	社会福祉法人 江寿会		
事業所名	グループホーム サンホーム江上 Bユニット		
所在地	長崎県佐世保市江上町4847-10		
自己評価作成日	令和2年11月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 2年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな立地に面しており環境に恵まれている。地蔵花苑が有り外気浴や散歩、ピクニック、花見等を楽しむ事が出来る。又、施設からは大村湾が一望できハウステンボスの夜景や花火も楽しむ事が出来る。施設横には畑もあり野菜を育てることもできる。職場内・外で研修や勉強会も多く職員の意識向上に努めている。委員会や様々な行事等を通して他部署との交流が出来ており連携が取れている。夏祭りなどの地域行事への参加、実習生、地域ボランティアの受け入れも積極的に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループでの基本理念を意識しながら、明るくその人らしい生活を送る事が出来るように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方の自宅へ伺いスイカを頂いたり、保育園の誕生日会に参加したりと交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	アルツハイマー啓蒙活動や介護教室を開催し、地域の方に対して認知症の理解を進めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催し、地域の方や知見者の意見を頂き、サービスの向上を目指している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の役員の中に佐世保市職員も含まれており、アドバイス等を頂いている。又、包括の職員とも、困難事例に関してアドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を中心に身体拘束についての理解を深め、個人に合わせたケアが実施できるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での勉強会への参加や、外部研修などを通じて、虐待防止に向けて取り組んでいる。また、法人で委員会があり、常時活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者が1名おり、分からない点については担当の後見人の方に聞き教えて頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約の際や、制度改定の時などは説明を行い、不明な点に関しては説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当の職員を中心に家族と良好な関係を築くことができるように努めている。また、運営推進会の場などで、知見者や家族代表等から意見を伺うようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダーや職員より意見がある場合はその都度提案してもらったり、会議の際にも同様に意見の提案をしてもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に管理者や職員の状態の把握に努めており、各職員が向上心を持って働けるような仕組み作りが行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者から管理者、各職員への聞き取り等にて、必要な資格・研修の受講への働きかけが行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の勉強会や、老施協、グループホーム連絡協議会、ケアマネージャー連絡協議会など、同業者との交流も多い		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には本人の要望の聞き取りを行い、それに基づいて支援を行うようにしている。また、定期的に支援の見直し、必要に応じて変更を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の段階で家族の要望等を確認している。また、面会の際や電話があった際には、利用者の状態を伝え、不安な事や要望等が無いか確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に本人、家族が何に困っているかの把握に努め、それに応じたサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや簡単な調理等を可能な方にはお願いをし、役割を持ちながら生活を送って頂けるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	付き添う事が可能な家族には、受診に付き添って頂き、様子を知って頂きながら、本人様との関係の継続に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染の方との面会など、施設に入られた後でも関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間関係の把握に努め、トラブルに発展しそうな時は職員が間に入るなどして未然に防ぐ努力を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を退所になられても、今後の生活の場が確保できるように他職種と連携を図りながら支援している。また、退所された方の身内の方からの相談等も有り、その際はお話を聞かせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で、本人の意向や思いを汲み取る事が出来るように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族、その他関係がある方より生活歴の聞き取りを行いこれまでの暮らしの把握を行っている。また、情報提供書等も活用しながらこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースに合わせて生活を送って頂いている。また、可能な方については家事を手伝って頂いたり、現在できる事を継続できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の主体が利用者であることを念頭に置きながら、本人の立場に立った介護計画を作成するように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや県下に関しては、申し送りノートを使用し、職員間の情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に合わせて、可能な限りの柔軟な支援やサービスを提供できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園には毎月誕生日カードを作成し、誕生日会に参加させて頂き、利用者からカードを手渡ししている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度かかりつけ医への定期受診を行っている。その他にも体調に異変が見られる時には、かかりつけ医への連絡を行い必要に応じて受診を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師を配置しており、健康状態の変化や体調不良時などは指示や助言をもらい受診に繋げている。また、看護師不在の時は母体である特養の看護師へ情報を伝えて指示や助言をもらい情報の共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護師や地域連携室のSWと連携し、退院に向けての情報交換や情報の共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に、看取りを実施していない事を伝えた上で、重度化した際の対策等を予め話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師からの勉強会等に参加し、急変時や事故時の対応について学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に避難訓練を実施している。また、日中と夜間の想定に分けて実施しており、その都度動きや反省点について話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や生活歴を把握した上で、穏やかに生活を送る事が出来るように声かけに気を付けながら行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望が聞かれる際は、可能な限り実現できるように職員が働きかけている。また、各担当の職員が本人の希望を表現できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の生活のペースを把握した上で、可能な限り希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の活用や、可能な方は美容室まで赴き整髪や身だしなみをできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所前に本人が好きな物、嫌いな物を把握している。また、アレルギーの有無を各院し、代替品を予め準備し、安心して食事して頂けるように取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に合わせた食事を提供している。また、食事量・水分量の把握に努め、必要な際には看護師・主治医への相談を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行うように支援している。磨き残しが多い方に関しては、職員が一部介助を行っている。義歯の方に関しては、週に数回義歯洗浄剤を使い、清潔を保つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日の排泄を表に記入し、個人の排泄パターンの把握に努めている。便意・尿意が無い方に関しては、時間を見ながら声かけ・誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向な方は、排泄時にお腹のマッサージを行い、排便が見られるように取り組んでいる。また、看護師に相談しながら必要に応じて下剤を使用し調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回以上の入浴を実施している。また、入浴剤の使用やゆず湯・菖蒲湯など季節感が感じられる入浴を実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良の訴えがあった際などは、居室にて休んで頂くようにしている。また、夜間は定期的に巡回を行い、異変がないか確認を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬前に職員2人体制にて日にち・名前・いつの薬かの確認を行った上で与薬している。また、内服薬が変更になった際には、申し送りノートに記入し、職員間での情報の共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な方に関しては、食器洗いや洗濯物たみ等の家事援助を行って頂き、自身の役割として取り組んで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があった際に天気やその時の状況に応じて、近場の散歩を行っている。また、時期を見ながらお花見やドライブも計画しながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各個人の小口現金を管理しており、必要に応じて使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族より希望があった際はその都度電話を繋いでいる。また、携帯電話を所持されている方に関しては、電池の確認等を行い、常に電話が繋がるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日共用スペースの清掃を行い、清潔を保つようにしている。また、壁面には職員・利用者が共同で作成した作品を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはソファを設置しており、気の合う方と談話されたり、おひとりでゆっくり過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具や思い出の写真を居室に配置する事により、居心地よく生活して頂けるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の動線を把握した上で、家具の配置等に注意しながら安全に生活して頂けるように支援している。		